

2022 | 春 | あんず

K y o r i n M a g a z i n e A n z u

vol. 7



03 …… キャンパスカレンダー 令和4年卒業式・学位記授与式を挙	10 …… 令和4年度学園予算
04 …… 理事長就任のご挨拶	11 …… 人事情報
05 …… 理事長退任によせて	12 …… 学部長新年度にあたって
06 …… 学長就任のご挨拶	13 …… 学生情報 保健学部健康福祉学科八王子キャンパスでの学び
07 …… 医学部長・病院長就任のご挨拶	14 …… 4市と包括協定締結、中央病棟手術室増築
08 …… 令和4年度事業計画	15 …… 医学部新講義棟が竣工、ご支援に感謝



11月 松田進勇記念アリーナで白衣式を挙
医学部4年生111名が良医となることを誓いました



10-12月 保健学部では、4年生が1年かけて行った卒業研究の
発表会を10月から12月にかけて各学科で開催しました



介護従業者にインタビューする学生達



フィールドワークを行う学生達

11月 武蔵野市の介護職を盛り上げるイベントに総合政策学
部生達が参加。取材を重ね制作した介護現場の紹介動
画を上映しました

2月 外国語学部観光交流文化学科のゼミで、産学官連携「多
摩地域マイクロツーリズムプロジェクト」の報告会に参加。
地域活性化の提案をしました

3月 令和4年3月 卒業式・学位記授与式を挙

令和4年学位記授与式が3月20日に松田進勇記念アリーナで挙行され、学部生・大学院生 計1,258名が卒業しました。
当日は新型コロナウイルス感染症防止の観点から、午前(医学部、保健学部、医学研究科、保健学研究科)、午後(総合政策学部、外国語
学部、国際協力研究科)の2部制で実施されました。



大瀧純一学長式辞



代表へ学位記を授与する
坂本ロビン外国語学部長

答辞を述べる卒業生代表(右)

理事長就任のご挨拶



理事長・学園長
松田 剛明

【経歴】

1993年 東京慈恵会医科大学医学部卒業
1999年 東京大学大学院医学系研究科博士課程修了
1999年 ハーバード大学ブリガム アンド ウィメンズ病院 研究員
2000年 コーネル大学ニューヨークプレスビテリアン病院 研究員
2002年 杏林大学医学部救急医学教室
2009年 杏林学園副理事長
2011年 杏林大学医学部 教授
2022年 杏林学園理事長

ん大学で完結するものではありませんが、種を植え、水を与え、見守り育てるのが我々の役目であると考えます。

私は本学において、学問を通じて教養を深め、他人を思いやる温かい心を持つ、オリジナリティ溢れる「人財」を多数輩出したいと考えております。卒業生をはじめとする本学に関わりのある皆様には、今後とも本学発展のために一層のご協力をお願いし、私の理事長就任のご挨拶と致します。

この度、理事長に就任致しました松田剛明です。

本学は、独創性豊かで人と社会の役に立つ人材の育成、実用的かつ高度な研究の推進、そして新宿以西の三多摩地区全域の都民の健康を守る大学病院としての責務を担っております。学園の責任者として、その重責に身の引き締まる思いです。

本学では、創立50周年関連事業の一環として、6年前に保健学部、総合政策学部、そして外国語学部を八王子キャンパスから新たな井の頭キャンパスに移転しました。さらに現在は、次の50年を見据えて、三鷹キャンパスのグランドデザイン計画を推進しています。昨年竣工した松田進勇記念アリーナに続いて、本年3月には医学部の新講義棟が竣工し、5月の連休明けから利用を開始します。さらに、今後はリサーチセンターの建設を進めて行く予定です。また、医学部付属病院においては、今後の手術需要の増大に備えるべく、ハイブリッド手術室と内視鏡手術室の増設を進行中です。新型コロナウイルス感染症の終息を見据え、今後も予定通りに学園の将来計画を推進する所存です。

現在、日本だけでなく世界の情勢は混沌たる状態にあり、楽観視できない要素や乗り越えなくてはならない問題が多く存在しています。そのような中で、どんなに時代が変化しても、社会を作り世界を動かすのは人でありま。そして、教育はその根幹にあり、人間が学び成長する場として存在し続けることが大学の使命ではないでしょうか。知識だけでなく、成熟した知性や人間性、職業人としてプロフェッショナルであらうとする姿勢などは、もちろ

Takeaki Matsuda

理事長退任によせて



前理事長・学園長
学園理事

松田 博青

私は本年3月末日を以って学校法人杏林学園理事長の職を退任致しました。

昭和63年(1988年)2月に学園創立者の初代理事長松田進勇の後任として理事長に就任し、以来34年余りの月日が流れました。この間、多くの教職員、卒業生、父母の皆様、社会の方々に支えられて今日を迎える事が出来ました事に、先ず御礼を申し上げます。

私は医学部を卒業して数年後から杏林大学の創設に関与し、以後今日までこの大学に勤務して参りました。

創立当初は、2年制の検査技師養成の短大(後に保健学部の学科に組織変更)を除けば実質個人経営の総合病院だけの施設しかなく、その後、医学部も入学定員60名、収容定員360名の最小規模の大学として発足致しました。

創立から50周年を過ぎた現在では、医学部、保健学部、総合政策学部、外国語学部、及び大学院3研究科(博士前期・後期課程)を含めて学生総数約5,700名、教職員数約3,300名の中規模大学に発展しております。

キャンパスも三鷹新川、八王子、井の頭の3カ所となり、平成7年以降の建物は全て免震構造とし、それ以前の建物は全て耐震補強を行っております。また1,153床(許可病床)を有する医学部付属病院は高度救命救急センター(都内4カ所のみ指定)を併設し、多摩地域を含む約500万人の人口に対応している拠点病院として評価されております。

卒業生の中からは、司法試験合格者や母校をはじめ国公私立大学の教職員、日本医師会や各地方医師会の役員、東京都庁の部長クラスその他、東証一部上場企業をはじめ中小企業でも多くの人材が活躍しております。

この50有余年の学園の歴史を振り返る時、決して平坦な道のりではなく、よくぞ今日まで発展してきたという思いが致します。それと同時に教育機関の教員及び経営責任者としては全くの素人の私に多くの教職員が御協力くださり、併せて多くの学外関係者からの御支持を頂いた事を思い、これ等の皆様様に深甚なる感謝と御礼の言葉を申し上げます。

永遠の歴史の時間の中でほんの一時期を杏林学園の責任者として過ごした私には、この学園が心の拠り所であり第二の母校であります。杏林学園が今後も発展を続け、内外からも有数の教育機関、医療機関として評価され続ける事を願い、併せて皆様に重ねて感謝を申し上げて理事長退任の御挨拶と致します。

Hiroharu Matsuda

学長就任のご挨拶



学 長
渡 邊 卓

【経歴】

1978年 東京大学医学部卒業
1978年 東京大学病院、日本赤十字社医療センター、
国立がんセンター中央病院などで勤務
1987年 ロンドン大学ユニバーシティカレッジ 客員研究員
1991年 杏林大学医学部臨床病理学教室
2001年 同学部 教授、同付属病院 臨床検査部長
2014年 同学部長、医学研究科長
2022年 杏林大学学長

大瀧純一前学長の後任として、今年度より学長を務めることになりました。微力ではございますが、杏林大学の発展のために力を尽くして参ります。

さて、杏林大学は創立50年余を経て、医学部、保健学部、総合政策学部、外国語学部の4学部を擁する総合大学としての地位を確立して参りました。これはひとえに学園創設者である松田進勇先生をはじめとする諸先輩方のご尽力の賜物ですが、この杏林大学を更に発展させることが、私達後進の責務であります。

本学は、建学の精神である「真善美の探究」に基づいて、「崇高な人類愛と高度の科学精神を基盤とするすぐれた人材の育成を目的とし、もって広く人類の福祉に貢献する」ことを、その使命として掲げております。

この使命の達成に向けて、時代の要請に謙虚に耳を傾け、柔軟に対応すべきことはいまでもありませんが、一方では建学の精神のもと、普遍的な価値を追求する姿勢を堅持することにより、時の流れに左右されることのない、揺るぎない体制の確立を目指すことも忘れてはならないと考えております。この両者の適正なバランスこそが、大学の健全かつ着実な発展には不可欠であると思います。今後進むべき方向性を慎重に見極めつつ、大学の運営を進めて参りたいと考えております。

皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

Takashi Watanabe

医学部長就任のご挨拶



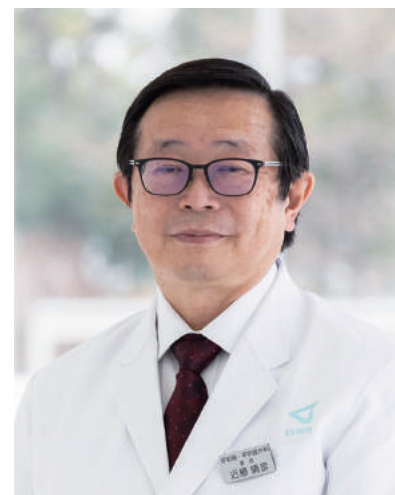
医学部長
平 形 明 人
Akito Hirakata

蔓延する新型コロナウイルス感染症と共にある日常、緊迫する世界情勢、生活を脅かすほどの気候変動など、この混沌とした日常を生き抜くためには、個々人でよりよい判断のできる人材が求められています。医学部でも、多様な環境においても良医としての行動ができる医師の育成を目指して、その土台となる習慣、態度、価値観を学生が身につけられるような教育カリキュラムの整備に努めています。講義や実習の実施にあたっても、対面形式やオンライン教育の利点や欠点を検討しながら、臨機応変に対応しています。

本年3月には、医学部新講義棟が竣工しました。バーチャルリアリティなどのシミュレーション教育に対応した設備、学生と教職員との交流を促すラーニングコモンズ、学生自習室などが造られ、学生の学習環境は改善します。本医学部は、高度医療や医学研究を実施している教職員と学生がお互いに密接に交流して、「学び合う」ことを大切にしています。基礎、臨床各部門での研究や学会などに参加できる「自由学習プログラム」も用意しています。6年間を通しての担任制度にも力を入れ、学生生活の悩みや進路相談などにも真摯に対応しています。

このような杏林大学医学部の伝統をさらに発展させて、医学部教育の充実に努めてまいりますので、皆様のご支援をお願い申し上げます。

病院長就任のご挨拶



病院長
近 藤 晴 彦
Haruhiko Kondo

本年4月より病院長を仰せつかりました近藤晴彦です。

この2年間、新型コロナ禍で大きな波のある時もない時も一貫して特定機能病院としての機能を維持しつつ、全病院体制でリーダーシップを発揮してこられた前任の市村正一先生に心から敬意を表するとともに、私に課せられた任務に心が引き締まる思いでございます。

就任にあたって、「あたたかい心のかよう、良質な医療を患者さんに提供します」という当院の理念を、私も含めてすべての職員がいつも心に留めて活動していくようにしたいと考えております。「あたたかい心」を感じて頂くには、患者さん・ご家族の視点を大事にする必要があります。「良質な医療」とは、安全でかつ高度な医療ということです。ひきつづき、医療安全の取り組みを継続し、最善の医療を提供できるように職員一丸となって努力してまいりたいと考えております。

また、当院はご存じのごとく多摩地区で唯一の大学病院本院であり、地域の医療の要としての役割を担っております。少子高齢化社会が進む中でおそってきた新型コロナ禍で、今まで以上に地域の医療機関や行政との密接な連携の必要性がクローズアップされております。地域連携にもより一層の力を注いでまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

令和4年度 事業計画（重点事業）

学園事務局

重点事業 （1）教育の質向上に向けた取り組み （2）研究体制の強化 （3）優秀な学生確保 （4）キャリア支援の向上
（5）情報基盤の整備 （6）地域交流活動 （7）医療体制 （8）学園運営体制の整備 （9）財務体質の強化

重点事業 ・ 項目	具体的施策
1 教育の質向上に向けた取り組み	
【全学共通：対面授業の実施】 ＜医学部＞ ・新科目の円滑な導入に向けた検討	・免疫学及び遺伝医学について基礎的内容から臨床的内容までを体系的に統一して学ぶためにそれぞれを独立した新たな科目とすることを予定しワーキンググループを構成、従来の教授内容との整合性も考慮した上で、具体的な検討を行う
・医学教育分野別評価受審の過程で明らかとなった、改善が必要な事項や審査時における助言への対応（継続）	・医学教育分野別評価（令和2年3月認定）受審の過程における要改善事項の定期的な報告のため、当学部教育環境の改善を図ることを目的として組織した「教育改善委員会」において、改善必要事項を整理し、継続的に医学教育の改善充実を図る
＜保健学部＞ ・医療保健領域のデータサイエンス教育の充実	・文部科学省の掲げる令和4年度 数理・データサイエンス・AI教育プログラムの認定を受け、さらなる充実を図る。加えて一部の学科を対象にデータサイエンス専門教育の準備を始め、データサイエンスに精通した医療・保健従事者として社会に貢献できる人材育成を促進する。
・言語聴覚士養成部門新設の準備	・本邦では高齢者・障害者の嚥下障害や高次脳機能に対応する人材の不足が顕在化している。令和5年度の言語聴覚療法士養成部門の新設へ向けて準備を始める
＜総合政策学部＞ ・新カリキュラムのスムーズな導入	・DDP(データ・デザイン・プログラム)とCBL(コミュニティ・ベースド・ラーニング)が学部教育の特徴となるように育てて行く。とりわけDDPを中心として文理融合の教育を目指す
・入試改革の検討と実施	・令和4年度入学に係る入試経験を踏まえ、総合選抜型入試と推薦入試のあり方について検討を行う。特に、新たな総合選抜型入試を検討し実施する
＜外国語学部＞ ＜ことばを通して主体的に人とつながり、人にやさしく、人を大切にしながら、協働して社会に貢献することができる人材を育成する＞ ・入学者の質向上と収容定員管理	・新カリキュラムにおける成果を積極的に広報し、志願者数の増加とより質の高い入学者確保に努める。入試日程や募集方法を工夫し、より多くの志願者を獲得できるよう、時流に合った新しい選抜方式を検討する
＜医学研究科＞ ・学際的な教育体制を強化するための取り組み	・令和4年度より1専攻制で教育・研究指導が開始されることに伴い、従来の専攻による枠組みを超えた、より充実した教育・研究指導体制の構築を目指す
＜保健学研究科＞ ・臨床心理学専攻の開講	・臨床心理学専攻（入学定員25名、収容定員50名）の開講初年度であり、円滑な臨床実習導入のために実習地と密なコミュニケーションのもと、課題の収集と解決に向けて取り組む
＜国際協力研究科＞ ＜総合政策学部と外国語学部での学びを基にいま世界が求める問題解決法を実現する＞ ・博士前期課程への進学者増加のための取り組み	・パンデミックが収まる中、海外の提携校からより多くの生徒を募集する。 また、学部生の大学院への進学を促す取り組みを継続していく
＜高大接続推進室＞ ＜高大接続・高大連携の継続・推進＞ ・アドバンストプレースメント（AP）の継続	・APを継続し、高校生向けに春・秋学期授業を開放する。高校と大学の時間割を考慮し、通常期の開講と併せて夏季・春季休業期間に集中講義を実施する
＜国際交流センター＞ ＜国際交流・グローバル人材育成の推進＞ ・学生の海外留学・研修の促進	・相互利益となる海外協定校を開拓。実績に基づき海外協定校を整理し交流のある海外協定校との連携を強化する
＜図書館＞ ・学習・教育支援	・シラバスに記載された教科書、参考書を紙媒体や電子ブックにより提供できるようにする。医学分館で、学生への専属図書館員（サポート・ライブラリアン）サービスを実施し、レポート・論文作成のサポートを行う
＜学生支援センター＞ ＜学生支援業務の整備と効率的な運用＞ ・井の頭キャンパス本部棟2階図書館を利用した総合学生支援事業推進	・図書館、教務課、キャリアサポートセンターなど、関係各部署と密接に連携し、総合学生支援事業を推進していく
＜保健センター＞ ＜健康保健活動の質向上に向けた取り組み＞ ・新型コロナウイルス感染症予防	・前年度に引き続き新型コロナウイルスへの感染予防を図る。感染防止の中枢部署として、感染者、濃厚接触者、有症状者の情報を収集し、関連部署と連携して対応する。 ・令和4年度より開設する八王子キャンパス保健室の安定した業務運営を進めていく
2 研究体制の強化	
＜医学研究科＞ ・研究環境の整備を目指した取り組み	・管理体制見直しにより、共同研究施設のより効率的な運用を目指すとともに、研究者の利便性の向上に向けた取り組みを引き続き行う
＜国際協力研究科＞ ・FD活動の推進および外部資金獲得件数増加の奨励	・昨年開催されたFDイベントを踏まえ、今年は大学院生による研究奨学金の認知度を高めていく
＜研究推進センター＞ ＜研究活動の活性化＞ ・全学的な研究体制の構築・学際的研究の拡充 ・科学研究費補助金の獲得のための支援拡充	・幅広い学問領域を網羅する総合大学の長を活かし、学際的な研究を行う体制を構築する ・科学研究費補助金の応募数ならびに採択数向上を目指し、過年度の状況を検証・分析のうえ、必要な情報提供、コーディネート機能をきめ細かく行い、科研費獲得セミナー・ワークショップと連動した支援を戦略的に実施する

重点事業 ・ 項目	具体的施策
＜男女共同参画推進室＞ ＜女性・若手研究者研究活動支援＞ ・研究支援員制度の充実化	・より充実した制度とするために、運営基盤・方法等を発展的に見直し継続する。特に、オンラインによる研究支援のあり方について検討する
・女性・若手研究者に対する支援と裾野拡大の継続	・シニア研究者による女性研究者への助成金申請書作成の助言・支援を積極的に拡充し、きめ細やかな指導を行う
＜図書館＞ ・講習会の実施と質の向上	・オンライン講習を含めた電子リソース利用講習会の充実を図り、データベース、電子ジャーナル、電子ブックの有効活用を促進する
3 優秀な学生確保	
＜入学センター＞ ・有効的な入試方法を提案し、入学試験の円滑な運営を図る	・前年度入試の課題及び改善点を検証し、有効的な入試方法を提案する。各学部と入念な打ち合わせのもと、完成度の高い実施要領を作成し、関係者と情報共有のもと引続き新型コロナウイルス対策も鑑みて、事前準備から当日の運営及び入学手続きまでを円滑且つ正確に実施する
4 キャリア支援の向上	
＜キャリアサポートセンター＞ ・ウィズコロナ時代の中での就職支援の見直し強化	・「より早く、より深く、よりきめ細かく」をモットーに教員と連携しながら就職支援を行い、学生の就職活動に向けた基礎力を強化することによって、一人でも多くの学生の満足度の高い就職の実現をめざす
5 情報基盤の整備	
＜総合情報センター＞ ＜3キャンパスに跨るICT基盤と教育環境の整備及び学事システム等の再構築による教育DX化の推進＞ ・管理サーバー及び関連機器のデータセンターへの移行	・管理サーバー及び関連機器のデータセンターへの移行を図り、井の頭キャンパスのネットワーク機器更改、新棟及び再活用校舎等の教育環境整備を進める
・学事システム等の再構築	・学事システム等の再構築に係り学事ソフトウェアの更改を進める
・情報セキュリティ管理の高度化	・情報セキュリティ管理の高度化のために情報セキュリティ基本規程の下位文書として、実施規程、実施手順、ガイドライン等の計画的整備を継続して行う
6 地域交流活動	
＜地域連携センター＞ ＜本学の特徴を活かした地域志向教育・研究活動促進＞ ・杏林地域総合研究所の活動の継続と発展	・地域社会を舞台とした研究に対する学内外のニーズは高いことから、これまでよりも視野を広く持って機動的に動くことができる組織として地域総合研究所の活動を推進していく
・地域志向教育・社会貢献活動を通じた学部・研究科間連携の促進	・医学部付属病院を含めた学内での地域交流活動情報を収集するとともに、学部間連携による「本学ならではの」地域志向教育・社会貢献活動について地域交流委員会を中心に企画検討する
7 医療体制（付属病院）	
＜健全な病院経営と特定機能病院としての地域医療への貢献＞ ・健全な病院経営と診療内容の質的向上	・データを活用した病院経営の改善。手術室の効率的運用による手術件数の増加。病床の効率的運用による病床稼働率の向上。無痛分娩の促進等による周産期医療の充実。高難度新規医療技術の導入促進の継続。クオリティマネジメント委員会等の主導による医療の質向上
・院内感染防止対策の強化と医療安全の推進	・新型コロナウイルス感染症の感染防止対策の徹底。病院内外の感染対策教育と指導の推進。医療安全教育の促進と医療安全文化の醸成。院内の倫理的諸問題を取り扱う体制の確立
・職員の勤務環境改善と人材育成の推進	・医師の働き方改革に関する時短計画の作成と第三者機関による評価。 ・医師事務作業補助者の体制の充実と業務拡大等によるタスクシフトの促進。 ・特定行為研修看護師教育課程の推進と専門・認定看護師の活用促進。ITを活用した事務作業等の効率化。 ・遺伝子診療の推進と人材の育成。次回病院機能評価に向けた体制強化。リモート会議等を活用した院内諸会議の効率化の促進
・地域医療機関との連携強化	・データを利用した近隣医療機関との連携強化。連携施設のデータを活用した初診患者数の増加。リモートネットワークを活用した地域医療機関との連携強化。東京都ドクターヘリ事業の確立と安定した運用
8 学園運営体制の整備	
＜ウェブを軸に据えた広報戦略の展開＞ ・公式ホームページの充実強化	・受験生サイトを刷新、入試広報媒体を印刷物からウェブに一層シフトする ・新講義機稼動にあわせホームページのリニューアルを進める。医学部教員と病院医師のデータベースも一本化し、更新の効率化とセキュリティの向上を図る ・病院ホームページは、患者の利便性を高めつつ、病院や医療情報の発信を進めていく ・大学・病院ともに既存のHPコンテンツの有効活用をはかる。誘導手段のSEO対策を講じ、見られる工夫を重ね、大学・病院のプレゼンスを高める
9 財務体質の強化	
・財政基盤の健全化	・令和3年度に策定された「第2期中期財務計画」（①当年度収支差額の恒常的黑字化、②施設設備計画と連動した資金計画の策定と実行、③当年度収支差額を黒字とした予算編成と執行）の基本方針に基づき、令和4年度においても予算管理に努める

事業計画の詳細は、大学 HP「経営・財務情報」に掲載しています。

令和4年度 予算について

資金収支予算の概要

総資金収入は661.62億円、総資金支出は658.07億円の規模である。

令和3年度（決算見込）からの繰越金は103.36億円。令和4年度予算の翌年度に繰越す金額は81.70億円となり、繰越金が21.6億円減少となる予算となった。

＜ 資金収支 ＞

収入の部 （単位：億円）		
科 目	令和4年度予算	令和3年度予算
学生生徒等納付金収入	114.43	113.13
手数料収入	4.65	4.89
寄付金収入	5.36	5.39
補助金収入	22.21	33.37
資産売却収入	0.00	0.00
付随事業・収益事業収入	5.67	5.59
医療収入	405.84	364.40
受取利息・配当金収入	0.09	0.12
雑収入	3.60	3.97
借入金等収入	0.00	0.00
前受金収入	18.37	18.10
その他の収入	81.35	71.71
小 計	661.62	620.73
資金収入調整勘定	△82.49	△80.39
前年度繰越支払資金	103.36	104.37
収入の部合計	682.49	644.71

支出の部 （単位：億円）		
科 目	令和4年度予算	令和3年度予算
人件費支出	231.35	228.11
教育研究経費支出	33.82	29.35
医療経費支出	203.69	186.30
管理経費支出	27.40	27.56
借入金等利息支出	1.45	1.62
借入金等返済支出	9.94	9.94
施設関係支出	26.76	66.82
設備関係支出	18.22	24.39
資産運用支出	11.51	12.93
その他の支出	92.89	57.01
予備費	1.00	1.00
小 計	658.07	645.09
資金支出調整勘定	△57.28	△92.12
翌年度繰越支払資金	81.70	91.74
支出の部合計	682.49	644.71

※百万円未満を切り捨て、合計額においては差異を生じる場合がある。

予算・決算の詳細は、大学HP「経営・財務情報」に掲載しています。

事業活動収支予算の概要

事業活動収入計は562.26億円、事業活動支出計は555.19億円である。その結果基本金組入前当年度収支差額は7.07億円の収入超過予算となった。

令和3年度（決算見込）の前年度繰越収支差額は△918.04億円、令和4年度（予算）の当年度収支差額は△65.91億円となり、翌年度繰越収支差額は△983.95億円の予算となった。

＜ 事業活動収支 ＞

(単位：億円)				
教育活動収支	事業収入の部	科 目	令和4年度予算	令和3年度予算
		学生生徒等納付金	114.43	113.13
		手数料	4.65	4.89
		寄付金	4.14	4.48
		経常費等補助金	19.35	32.07
		付随事業収入	5.67	5.59
		医療収入	405.84	364.40
		雑収入	3.49	3.87
	ア) 教育活動収入計	557.60	528.47	
	事業支出の部	人件費	235.78	231.86
		教育研究経費	50.95	44.81
		医療経費	232.29	215.05
		管理経費	32.42	32.80
徴収不能額等		0.01	0.01	
イ) 教育活動支出計		551.47	524.54	
A) 教育活動収支差額		6.13	3.92	
教育活動外収支	事業収入の部	受取利息・配当金	0.09	0.12
		その他の教育活動外収入	0.00	0.00
		ウ) 教育活動外収入計	0.09	0.12
	事業支出の部	借入金等利息	1.45	1.62
		その他の教育活動外支出	0.00	0.00
		エ) 教育活動外支出計	1.45	1.62
		B) 教育活動外収支差額		△1.36
経常収支差額 (A+B)		4.77	2.42	
特別収支	事業収入の部	資産売却差額	0.00	0.00
		その他の特別収入	4.56	2.80
		オ) 特別収入計	4.56	2.80
	事業支出の部	資産処分差額	1.26	1.25
		その他の特別支出	0.00	0.00
		カ) 特別支出計	1.26	1.25
		C) 特別収支差額		3.30
D)〔 予備費 〕		1.00	1.00	
基本金組入前当年度収支差額 (A+B+C+D)		7.07	2.97	
基本金組入額		△72.98	△48.63	
当年度収支差額		△65.91	△45.65	
前年度繰越収支差額		△918.04	△883.55	
翌年度繰越収支差額		△983.95	△929.21	

事業活動収入計 (ア＋ウ＋オ)	562.26	531.41
事業活動支出計 (イ＋エ＋カ＋予備費)	555.19	528.42
事業活動収支差額 (A＋B＋C＋D)	7.07	2.97

※百万円未満を切り捨て、合計においては差異を生じる場合がある。

人 事 情 報

2022年度 杏林学園役員

役 職	氏 名	現 職
理事長	松田 剛明	学園長・大学教授
理 事	松田 博青	大学名誉教授
理 事	渡邊 卓	大学長
理 事	平形 明人	大学医学部長
理 事	岡島 康友	大学保健学部長
理 事	北島 勉	大学総合政策学部長
理 事	坂本 ロビン	大学外国語学部長
理 事	近藤 晴彦	大学教授（付属病院長）
理 事	柴原 純二	大学教授（医学部教務部長）
理 事	田口 晴彦	大学教授（保健学部教務部長）
理 事	進邦 徹夫	大学教授（総合政策学部教務部長）
理 事	岩本 和良	大学教授（外国語学部教務部長）
理 事	小塩 節	フェリス女学院特別顧問・中央大学名誉教授
理 事	甲能 直幸	立正佼成会附属佼成病院病院長・大学名誉教授
理 事	鈴木 典比古	前公立大学法法人国際教養大学理事長・学長

役 職	氏 名	現 職
監 事	則定 衛	弁護士・元東京高等検察庁検事長・元法務事務次官
監 事	石井 道遠	(株)東日本銀行特別顧問、元国税庁長官

2021年度 学長退任

大瀧 純一	2022年度から特任教授（学長付）
-------	-------------------

2022年度 就任教授

学 部	所属教室/学科	氏 名	職 位
医 学 部	眼科学教室	井上 真	教授
医 学 部	整形外科科学教室	森井 健司	教授
医 学 部	小児科学教室	吉野 浩	臨床教授
保 健 学 部	看護学科看護学専攻	伊藤 久美	教授
保 健 学 部	健康福祉学科	片桐 朝美	教授
保 健 学 部	作業療法学科	石毛美代子	教授
外国語学部	英語学科	嵐 洋子	教授
外国語学部	中国語学科	千野万里子	教授

2022年度 大学役職者

役 職	氏 名	役 職	氏 名
学長	渡邊 卓	研究推進センター長	櫻井 裕之
学部長(医学部)	平形 明人	保健センター長	岡本 晋
学部長(保健学部)	岡島 康友	総合情報センター長	大森 拓哉
学部長(総合政策学部)	北島 勉	地域連携センター長	石井 博之
学部長(外国語学部)	坂本ロビン	高大接続推進室長	稲垣 大輔
医学研究科長	平形 明人	教務部長(医学部)	柴原 純二
保健学研究科長	岡島 康友	教務部長(保健学部)	田口 晴彦
国際協力研究科長	坂本ロビン	教務部長(総合政策学部)	進邦 徹夫
医学部付属病院長	近藤 晴彦	教務部長(外国語学部)	岩本 和良
付属図書館長	大木 紫	学生部長(医学部)	渡邊衡一郎
医学分館長	大木 紫	学生部長(保健学部)	望月 秀樹
井の頭分館長	亀崎 路子	学生部長(総合政策学部)	木暮健太郎
キャリアサポートセンター長	平石 富男	学生部長(外国語学部)	志村 良浩
国際交流センター長	宮首 弘子	医学研究科 教務担当	大西 宏明
入学センター長	岡田 洋二	保健学研究科 教務担当	八並 光信
学生支援センター長	志村 良浩	国際協力研究科 教務担当	倉林 秀男

2022年度 名誉教授

学 部	氏 名
医 学 部	渡邊 卓
外国語学部	金田一 秀穂

2021年度 定年退任教授

学 部	所属教室/学科	氏 名	2022年度
医 学 部	衛生学公衆衛生学教室	木崎 節子	客員教授
医 学 部	腫瘍内科学教室	古瀬 純司	
医 学 部	消化器内科学教室	森 秀明	特任教授
保 健 学 部	臨床検査技術学科	宮澤 博	
保 健 学 部	理学療法学科	中野 尚子	
総合政策学部	総合政策学科	大川 昌利	特任教授

ご逝去 竹内一夫名誉学長



竹内一夫名誉学長が、2021年12月8日に逝去されました（享年98歳）。
1973年に本学に教授として着任した後、1983年からは医学部長、1988年から1998年までは学長を務めました。
また、1985年には、厚生省(当時)の「脳死に関する研究班」班長として、後世「竹内基準」と呼ばれる脳死の判定基準をまとめ、日本の脳死臓器移植の確立に道筋をつけました。
杏林大学のみならず、日本の医学に功績を残された竹内名誉学長のご冥福を謹んでお祈り申し上げます。

学部長 新年度にあたって

保健学部



保健学部長
大学院保健学研究科長
岡島 康友

With コロナ時代の保健学部教育

今年は新年早々、オミクロン株の出現と急拡大でコロナ禍の新たな局面を迎えました。このような変異ウイルスの出現に際しても教育を維持することが「Withコロナ時代」の大学に求められております。

長いコロナ禍によって、教職員は感染対策に長けるとともに、対応としてのオンライン授業に精通しました。しかし、保健学部の教育、つまり医療・保健関連の専門職養成には臨床実習をはじめ、対面授業が欠かせません。実際、厚生労働省はその重要性を鑑み、国家試験受験資格付与の規則改定に際して、従来以上の実習時間の確保を盛り込んでいます。しかしながら、コロナ禍によって実習先の病院や施設ではクラスター発生を危惧するあまり、受入れ門戸を狭めているのが現況です。このような状況下でも少人数の現場教育を維持できたのは、医学部付属病院をはじめ、近隣の教育関連の多くの施設が協力してくださったお陰です。この場を借りて厚くお礼申し上げます。卒業生、在学生、そして保護者の皆様には今後とも保健学部の教育へのご理解とご支援を宜しくお願い申し上げます。

総合政策学部



総合政策学部長
北島 勉

時代の変化に対応した新しい教育を展開

総合政策学部は、今年度新しいカリキュラムを導入いたします。従来から行っている社会科学の7分野による学際的な教育をベースとして、よりパワーアップしたグローバル人材プログラム(Global Career Program)の他に、社会のデジタル化に対応できる人材を育成するプログラム(Data Design Program)、国内留学などを通して地域の課題解決に貢献できる人材を育成するCommunity-based Learningを開設します。2年生以上の学生も新しいカリキュラムで提供される科目を履修できるようにいたします。学生諸君には、新旧カリキュラムが提供する様々な学びの機会をうまく活用し、在学中の目標を達成して欲しいと思っております。

今年度も新型コロナウイルス感染症の流行の波が高くなる時期が来るかもしれませんが、感染予防策を徹底し、オンライン講義の良さを活かしつつ、対面中心で講義を提供して行きたいと思っております。引き続き、総合政策学部の教育活動へのご理解とご協力のほど、どうぞ宜しくお願いいたします。

外国語学部



外国語学部長
大学院国際協力研究科長
坂本ロビン

多角的な視点の必要性

この2年間、あらゆる国が各々の方法で新型コロナウイルス感染症に対応してきました。しかし、この問題に対する完璧な対処方法は確立されていません。この経験を通じて私たちが改めて学んだのは、自らの考えを深めるために、他者とコミュニケーションを取ることの大切さです。

外国語学部では、国際社会に貢献できる人材の育成、すなわち物事を多角的な視点でみることが出来る学生の育成に努めています。そのため、初年次にはデータリテラシーの重要性と、データに基づく判断により自らの考えを裏付ける方法を学びます。また、我々は学生一人一人が独自性を持つため、自らの興味を追求することを推奨しています。教職員は、学生が最高の学問の道を切り拓いていけるよう、一対一で支援します。英語学科、中国語学科、観光交流文化学科、いずれの学科においても、学生は自分自身の考えを明確に表現するだけでなく、他者の視点を重んじ、尊重することの大切さを学びます。そうすることで、社会を守り、世界の舞台で活躍できる人材を育てています。

学生情報

2021年度 学位授与者数

	学 部	学位授与数	累計学位授与数
学 部	医学部	100	4,542
	保健学部	636	10,370
	総合政策学部	216	10,704
	外国語学部	254	9,433
学 部 合 計		1,206	35,049
	研 究 科	学位授与数	累計学位授与数
大 学 院	医学研究科	14	1,115
	保健学研究科	19	425
	国際協力研究科	19	1,120
大 学 院 合 計		52	2,660
総 計		1,258	41,697*

*総計は2020年度閉校看護専門学校生含む

在学生数（2022年3月1日 現在）

	学 部	学 生 数
学 部	医学部	718
	保健学部	2,788
	総合政策学部	984
	外国語学部	1,038
学 部 合 計		5,528
	研 究 科	計
大 学 院	医学研究科	67
	保健学研究科	42
	国際協力研究科	35
大 学 院 合 計		144
総 計		5,672

2021年度3月卒業生 学園長・学長賞 表彰学生

医学部	井上亮太郎	川原 美久	角田 進
保健学部	龍 美咲	小西 可奈	橋本 葵
総合政策学部	磯野 杏菜	高橋 由衣	相良 采佳
外国語学部	翼 家佑	桑島 悠人	武田 蒼依

2022年度入試 志願者数（1年次入学）

学 部	学 科	専 攻	志願者	
医 学 部	医学科		3,388	
	臨床検査技術学科		763	
	健康福祉学科		325	
	看護学科	看護学専攻	1,900	
		看護養護教育学専攻	499	
	臨床工学科		285	
	救急救命学科		212	
	理学療法学科		877	
	作業療法学科		203	
	診療放射線技術学科		1,174	
保 健 学 部	臨床心理学科		369	
	小 計		6,607	
	総合政策学部	総合政策学科		748
		企業経営学科		469
		小 計		1,217
	外国語学部	英語学科		507
		中国語学科		164
		観光交流文化学科		314
		小 計		985
	総 計			12,197

保健学部健康福祉学科 八王子キャンパスでの学びを開始

保健学部健康福祉学科では、2022年度からスポーツを中心として健康寿命延伸に貢献できる運動指導者の養成を開始しました。授業は八王子キャンパス(八王子市宮下町)を改修し、主に使用します。運動施設が充実している同キャンパスをより一層整備するため、遠隔授業環境にも対応した講義室、図書室、学生食堂、事務室などを改修整備して、運用が始まりました。屋内練習場も今年9月上旬の完成を目指して、工事を進めています。



講義室、図書室、事務室が入る校舎



講義室



野球部とバスケットボール部が在籍

新たに4市と包括協定を締結し 地域連携を促進

地域連携に取り組む本学は、昨年度に静岡県東伊豆町（2021年12月締結）、秋田県湯沢市（2022年1月締結）、宮城県東松島市、石巻市（2022年3月締結）の4地域と包括連携協定を締結しました。

これにより、東伊豆町とは、ウェルネスツーリズムの構築やインターンシップの実施などを中心とした活動に取り組んでいきます。湯沢市とは、これまでも連携してきた、かだる雪まつりや秋の宮温泉郷での観光事業を通じた地域連携活動を展開していきます。

宮城県東松島市、石巻市では、これまでに総合政策学部で取り組んできた東日本大震災からの復興支援などの連携を深めています。また、学生と共に取り組むこの活動は、総合政策学部で実践しているCBL（Community-based Learning）教育として、学生が地域での活動を通して地域課題解決力の修得を目指すものとなります。

本学はこれまで、大学周辺地域の東京都羽村市、三鷹市、武蔵野市の3市と包括連携協定を締結し、様々な連携活動に取り組んできました。今後も、医療保健系学部を母体とした総合大学としての特長を生かし、7つの連携自治体の「知の拠点」として様々な分野で教育・研究・社会貢献活動を展開していきます。



静岡県東伊豆町との連携協定締結



秋田県湯沢市との連携協定締結

中央病棟手術室増築 5月竣工を目指して

増加する患者さんの手術のニーズに応えるため、手術室を3室増築し、当院の手術室は全体で24室になります。

2021年4月から隣接する高度救命救急センターおよび中央病棟の一部解体・改修工事が始まり、その後、増築手術室の建設工事に着手しました。現在は2022年5月竣工を目指し、内装仕上げや設備工事を進めています。

- 増築手術室：より高度な手術を行うハイブリッド手術室 1室／内視鏡手術の対応が可能な手術室 2室
- 増築場所：中央病棟と高度救命救急センターの一部
- 設備：地上3階建て免震構造、延べ床面積 約955㎡



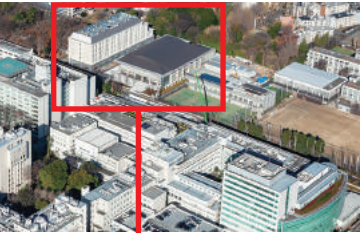
外観イメージ



手術室内イメージ

医学部新講義棟が竣工

杏林大学の将来構想として進行している三鷹キャンパス整備の一環として、2020年に着工した医学部新講義棟が3月15日に竣工しました。この「医学部講義棟A」では、学生が創造的な学習活動を行えるよう、様々な機能の設備が配置されています。



- 左) 医学部講義棟A
右) 2021年竣工 松田進勇記念アリーナ
- 設備：地上6階建て免震構造
延べ床面積 約11,000㎡
- 【フロア構成】
- 6F 講義室 小講義室 自習室 演習室
 - 5F 講義室 小講義室 演習室
 - 4F 講義室 自習室 学生ラウンジ
 - 3F 講義室 自習室 講師控室
 - 2F ラーニングcommons 情報演習室
 - 1F 事務室 ラーニングcommons・カフェテリア



- ① 備品が入る前の3階講義室
- ② 6階北側ウッドテラス
- ③ アーチが連なる開放的なロジャ（開廊）
- ④ 様々な交流の場となるラーニングcommons。1階はカフェが併設。

あたたかいご支援に感謝

学生支援のための教育研究募金、医療従事者が治療に専念できる環境を整備するための付属病院へのご寄付等に多くの皆様からご支援を賜りました。杏林大学を支えてくださる皆様のご支援とご理解に感謝申し上げます。

なお、杏林大学医学部講義棟建設募金の申込期間は2022年3月31日で終了しました。ご寄付いただきました皆様ありがとうございます。寄付状況は記載のとおりです。

■2021年度寄付状況

2021年4月1日から2022年2月28日までの種類別件数と金額等を報告します。

寄付の種類	累計件数	累計金額
教育研究募金	18件	5,980,000円
医学部付属病院へのご寄付	30件	4,568,500円
杏林大学医学部講義棟建設募金	120件	134,474,560円
奨学寄付金	245件	176,847,600円
杏林大学リサイクル募金	50件	216,786円

●お問い合わせ先

杏林学園募金事務局（経理課内）
〒181-8611東京都三鷹市新川6-20-2
TEL:0120-50-1665（フリーダイヤル）
E-mail:bokin@ks.kyorin-u.ac.jp

杏林学園募金サイト



皆様からのご寄付は、それぞれの使途・目的に沿って、有効に活用させていただいております。



あんず Anzu 2022 | 春 |

広報誌 あんず Vol.7

2022年4月1日発行

発行 学校法人 杏林学園

企画・編集 広報室

〒181-8611 東京都三鷹市新川6-20-2

TEL.0422-44-0611